

中村吉藏 （中村吉蔵） 劇作家、小説家、文學博士。明治十年五月十五日爲根縣生れ、昭和十六年十一月二十四日歿（八七—一九四一）。幼名常治。

號はるさゆ、兜庵、兜生、治雷庵、奇狹堂、春雨、春雨生、鐵籠子、

鬼狹堂等。明治二十六年早稲田大學英文科卒。在學中「大阪毎日新聞」の懸賞小説に「無花果」が當選し小説家として活動も、歐米留學

後劇作に轉じた。大正二年藝術座舞臺監督、九年「アペン」會主宰。晩

年歌舞伎研究で學位を得た。「故中村吉藏博士追憶集」（昭和十七年

五月一日小林政治編輯）がある。

著譯書「わが草」（中村春雨名、合著・新聲記者編、明治二十二年五

月二十五日新聲社）、「雛鳩」（同、明治二十四年十一月十三日大阪

・金尾文淵堂書店）、「聖塗馬車」（同、明治二十五年二月十日新聲

社「アカツキ」）、脚本「司法大臣」（同、明治二十七年一月一日春

陽堂）、「密航婦」（同、明治二十九年一月一日金尾文淵堂）、「新

約物語」（内題「通俗新約物語」同、明治二十九年一月一日金尾文淵

堂）、「牧師の家」（同、明治四十三年五月十日新橋堂書店）、「歐

米印象記」（同、明治四十三年六月二十日春秋社書店）、「最

壇」（明治四十四年六月四日博文

館）、「ブランド・マシエール」著

「歐洲演劇史」（中村春雨名、譯、

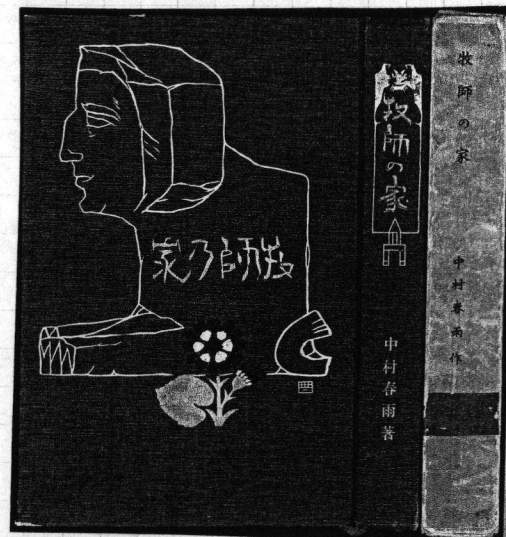
大正二年一月一日大日本文明協會專

務所）、「舞踊と歌劇」（同、編、

大正二年四月十七日大日本文明協會

事務所）、「劇論と劇評」（内題「最

近



- 劇論と劇評』大正二年九月十七日岡村書店)、ワイルド作『サロメ』
 (譯、大正二年十一月二十一日南北社)、『世界文學物語』(中村春
 雨名、合著・畠山房編輯部編、大正二年十一月二十一日畠山房)、
 『リツク・イブセン作』『ブランド』(譯、大正三年二月十日東京堂書
 房)、同『イブセン書簡集』(譯、大正三年九月十八日新潮社)、同
 『人形の家』(譯、大正三年十二月十五日新潮社『新潮文庫』)、『新
 社會劇』(大正四年四月二十四日南北社)、『真人間』(大正五年一
 月七日新潮社)、『トハストイ叢書・51 闇の力・生ける屍』(洗藤
 綠葉共譯、大正六年二月十七日新潮社)、戯曲集『白隠和尚外四篇』
 大正七年九月二十五日天祐社)、『淀屋辰五郎』(大正九年四月十二
 日天祐社)、史劇『井伊大老の死』(大正九年六月七日天祐社)、同
 『大鹽平八郎』(大正十年十一月十日天祐社)、『近代演劇史論』(河
 野義博共著、(大正十年十二月十五日日本評論社出版部)、イブセン
 作『人形の家』(大正十一年四月二十八日新潮社『泰西戯曲選集』)、
 『希臘悲劇六曲』(譯、大正十一年八月五日東京堂書店『世界名著叢
 書』)、〔中村吉藏〕『現代劇選集』(大正十一年十月二十日大鏡閣)、戯曲
 『鏡屋五兵衛父子』(大正十一年十一月十八日改造社。再刊、十四年
 二月)、『十五百春秋社』『現代名脚本選集』)、『戯曲作法』(大正十四
 年四月十五日金原堂)、戯曲集『道化役者』(大正十五年七月八日ヤ
 ルス)、『THE DEATH OF ITTAIRO (井伊大老の死)』(城谷默譯、昭
 和二年七月五日シヤパン・タイムス社出版部『英譯現代日本文藝叢
 書』)、『中村吉藏戯曲集』(昭和二年十月五日春陽堂)、戯曲『豫
 言者は蓮』(昭和五年五月二十一日近代社)、『演劇よ何處へ行く』

(合著、昭和五年十一月) 二千日東京朝日新聞發行所「朝日民衆講座」
 「婦人公論大學・演劇叢書篇」(合著・島中雄作編、昭和六年十一月
 十) 二千日中央(論社)、戲曲集「明治時人傳」(昭和七年四月) 二千日雄
 文閣「雄文閣藝術叢書」)、
 「戲曲の作法」(昭和八年八月十日金星
 堂)、
 「演劇獨語」(昭和十一年八月十七日東京書房「藝藝隨筆」)、
 「國民娛樂脚本集・第一輯」(合著・國民精神總動員本部編、昭和十
 五年十月) 二千日國民精神總動員本部)、
 「中村七郎藏集」(昭和十七
 年八月) 二千日坂上書院「昭和演劇新書」)、
 「伊藤博文」(昭和十七
 年七月八日大日本雄辯會講談社)、
 「日本戲曲技巧論」(昭和十七
 年七月十五日中央(論社))、
 「短篇劇名作選」(合著・日本移動演劇
 聯盟編、昭和十七年十一月十五日協榮出版社)、
 「現代演劇論」(林
 田衝吉・印南高一
 田義朗・大山 功編、昭和十七年十一月) 二千日豐國社「早稻田演劇協
 會演劇叢書」)、
 戲曲「伊藤・東郷・頭山」(昭和十八年八月十五日
 鶴書房)等。

